



高島学園

中学校だより 【第6号】

令和4年 6月10日

TEL36-0079 FAX36-8012

【文責 校長 浦島 容子】

○高島中学校体育祭

体育祭が終わりました。すがすがしい体育祭で、学級のまとまりと、学校の一体感が見られました。それは、6月8日（水）の当日だけではなく、当日までの練習の中で、クラスのために、学校のためにと頑張る生徒がたくさんいました。前日の準備では、草を引いたり、テントを立てたり、道具を準備したりする生徒の自主的な行動に、感心でした。当日終わってからの後片付けも同じでした。疲れも見せず、進んで、力強く、自分から動いて学校の役に立とうとする頼もしい生徒の姿がたくさん見られたことにうれしく思います。

大きな行事は、これからも続きます。素晴らしい本番のため、事前の準備や振り返りに、生徒はしっかりと取り組みます。うまくいかないこともあります。その中で子どもたちは、勉強していきます。今回の体育祭も盛り上がった良い体育祭でしたが、解決すべきこともあります。話し合いを継続していきます。話し合うことから子どもたちは力をつけていきます。その時の大人の関わり方が非常に大切になってきます。保護者の皆様には、たくさん参観していただき、ありがとうございました。この頑張りをほめてやっていただき、次の活動がさらに前向きな気持ちで取り組めるよう励ましをお願いします。見守りくださった地域の方々、ありがとうございました。

生徒会はほんとうによく考えて、よい体育祭を作ってくれました。次の活動に向けて前進してください。さらによりよい学校を目指してほしいと思います。



○小中一貫教育のよき

高島学園は、小中学校が隣接しているので、9学年の子どもたちの様子がよくわかります。子どもたちの成長の様子もよくわかります。それぞれの学年の成長段階に即した活動を組み、必要な支援を即座にすることができます。よりよい教育を行うのに最適な環境です。

そうじは、小中学校とも一日のだいたい同じ時間帯に行われています。4月に高島中学校に赴任してから、10分間のそうじ時間、先生に指示をされるのではなく、進んでそうじする生徒の姿を多くの場所で見かけます。周りの人が、しなくても落ち着いた態度できちっと掃除をする生徒がいます。そうじしない人について批判的に思っている様子もありません。自分が損なことをしているというような感じでもありません。大人のような雰囲気を感じます。周りをしっかりと認め、誰とでもよい人間関係をつくっています。9年の生徒です。「良いことは誰もしなくても、一人でも行う」を実践してくれています。この生徒は、私がこのように見ていたということには気づいていないでしょう。良いように見てもらいたいということもありません。これが普通なのです。きっとこの先も同じように続けてくれるでしょう。

小学校のそうじの時間です。音楽もなく、チャイムがなる前に、黙ってモップを手にとって、体育館のそうじを始めた児童に出会いました。こんな小学生が、ここ高島学園にいるのだと感心しました。この児童の姿をみて、小中一貫教育のすばらしさを実感しました。

誰もしない良いことを見つけて、どんどん実践していく児童生徒が多くなってほしいと思います。



○6・8・9年生授業研究の様子

授業研究会が行われています。以前の学校だよりで書かせてもらったように、子どもの主体的な学びのため、高島学園の「学び合い」研究がどんどん進んでいます。

8年生の社会の研究授業です。室町文化と安土桃山文化について4人のグループで、意見を出し合ったり、教え合ったりしながら、自分たちで学習を進めていました。学級全体でも自分の考えをしっかりと伝えることができました。滋賀県教育委員会から来られた先生が「どの生徒もしっかり発言することができていた。学ぶ態度が落ち着いている。」と感心しておられました。

9年生の理科の研究授業です。グループで実験し、段階を踏んで話し合いを進め、自分たちで電池の仕組みを見つけていきました。いろいろな考えがたくさん出て、話し合いに深まりが見られました。華頂短期大学から来られた先生が、「こんなに生徒が楽しそうに話す授業は見たことがない。」とおっしゃられるほどでした。

さすが、最高学年である8、9学年の集中した学習態度です。

その日には6年生の社会の研究授業もありました。

6年生も自分たちで縄文弥生時代のキャッチコピーを考え、どんどん学習を進めています。児童生徒の主体的な学びが前進しています。

